

平成 30 年度 第 8 回帯広市総合計画策定審議会 議事概要

日 時 : 平成 30 年 11 月 8 日 (木) 19:00~20:50
場 所 : 帯広市役所 10 階第 5B 会議室
出席委員 : 金山会長、有塚委員、岩田委員、氏委員、河野委員、日月委員、林委員、森委員、村田委員、渡辺委員 (以上 10 名)
説明員 : 池原政策推進部長、石井政策推進部企画調整監、西尾企画課長、
(事務局) 中西企画課主査、高橋企画課主査、千葉企画課主査、
廣澤企画課主任、土田企画課主任、西嶋企画課主任補、佐藤企画課主任補
傍聴者等 : 報道関係者 3 名
配付資料 : 会議次第、委員名簿、意見集約結果、資料 1~5、
質問・意見シート

◆会議次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) これまでの議論の整理 (時代の潮流とまちづくりの課題)
 - (2) これまでの議論の整理 (各分野)
 - (3) これまでの議論の整理 (人口、都市形成)
 - (4) まちづくりの方向性の取りまとめに向けた視点
 - (5) 総合計画推進の考え方
3. 閉会

◆議事概要

【事務局】 19 時 00 分時点で、委員 15 名中、10 名の委員が出席し、過半数に達しているため、帯広市総合計画策定審議会条例第 6 条第 2 項の規定により、会議が成立していることを報告する。

【会長】 始めに、(1) これまでの議論の整理 (時代の潮流とまちづくりの課題) について、事務局より説明をお願いします。

【事務局】 — 資料 1 により事務局説明 —

【会 長】 ただ今の説明について、質疑を行う。意見、質問等あれば、発言いただきたい。

【委 員】 ここでよく使われている「地域」の範囲の解釈が様々であるため、わかりにくい。

【事 務 局】 時代の潮流の中に記載している「地域」の解釈については、内容によっては、帯広市全体を指すこともあれば、町内会単位を指すこともあり、ひとつに定義することが難しい。今後、まとめていく際にはそれぞれの地域の意味がわかるよう書き方を工夫していきたい。

— 資料 2 により事務局説明 —

【会 長】 ただ今の説明について、質疑を行う。意見・質問等あれば、発言いただきたい。

【委 員】 このようなまとめ方になってしまうのは仕方がないかもしれないが、ご提示していただいた内容では、これまで議論した内容が反映されているかどうかわからない。まとめる際に、審議会の皆さんが発言していただいた内容に近い表現にまとめることはできないか。

【事 務 局】 今回の資料は、現状と課題、今後必要な取り組みを中心にまとめた段階である。今後、答申案をまとめる際は、委員の発言の背景なども踏まえるなど、可能な限り、反映していけるよう検討したい。

【委 員】 文章にまとめると包括的になり、内容が伝わってこないので、キーワードを列挙してはどうか。

【事 務 局】 それらも含めて、どのような書き方が良いか検討したい。

【委 員】 この「資料 2」はどのような位置づけのものなのか。各分野の課題を書いているという捉えでよいか。

【事務局】 この資料2は、これまでの審議会でのご議論を基に、各分野において現状と課題、何が求められているかという部分を書いているものである。

【委員】 記載している内容は、過去の審議会資料から、審議会での意見を踏まえて作成しているということか。

【事務局】 審議会の際に配布した資料をベースに、これまでの審議会での意見を反映して作成している。

【会長】 資料2の構成は、前回（第六期総合計画）の答申書と同様、分野毎に整理したものである。

【委員】 資料2は、前回の答申書でいうと、めざすまちの姿にあたるのか。

【事務局】 前回の答申書では、まちづくりの分野別の方向性にあたる部分である。第六期総合計画では、基本計画に17の政策と50の施策をお示ししており、資料2は、総合計画の各施策のベースになる部分と捉えていただきたい。

【会長】 本日の議論が、答申書のどの部分に位置づけられるのか、確認しながら進めていただきたい。

【会長】 他になければ、次に（3）「これまでの議論の整理（人口、都市形成）」を議題とする。事務局から説明願う。

— 資料3により事務局説明 —

【会長】 ただ今の説明について、質疑を行う。意見・質問等あれば、発言いただきたい。

【委員】 帯広市は住みよい地域であるが、子どもたちが進学・就職等でこの地を離れ、戻ることができる環境が整っていないのが、人口減少の問題だと思う。

これからは、技術革新などにより場所に縛られることなく、どこでも仕事ができる時代であり、先進技術を取り入れ、若い人が働きやすいまちづくりを進めることが、人口減少・少子化の抑制につながるのではないか。

【事務局】 この地に移住する方の多くが、十勝・帯広とのつながりを持つ人たちである。子どもたちにこの地域を深く知ってもらい、愛着や誇りを持ってもらうとともに、若年層の仕事づくりに取り組むなど、この地で育った子どもたちに戻ってもらうための意識醸成・環境づくりは、重要な視点であると認識している。

【委員】 スラックラインというスポーツがあるが、それをまちづくりに活かしているのが長野県の小布施町である。もともと、町内の副住職が境内で始めたのがきっかけであり、一人の取り組みに自治体が注目し、今では国内の先進地となっている。

このように、たった一人の遊びから、まちづくりに発展した例もあり、例えば、高校生の遊ぶ場所がないという声が多いのであれば、高校生が自ら遊ぶ場所を作ることを支援する取り組みなどを実施すると思う。

【委員】 まちづくりにおいては、まちの状況を正確に把握することが重要であり、市内における人口減少や空き家発生地域差、公共施設の利用頻度など詳細な分析・調査を行い、そうした結果の見える化を通して、行政と市民の意識の共有を図ることが必要である。その上で、市の施策における事業の優先順位の判断を行えば、市民理解にも結びついていくと思う。

現状では、市の取り組みが散漫になって見えるので、まちづくりの課題を明確化できれば、集中して財源を投入できると思う。

【事務局】 実態把握という視点は大事なことだと認識している。公共施設マネジメント計画に基づき、施設のあり方を検討する中においては、施設

を維持するかどうかの議論は避けられず、その利用実態を市民に理解してもらうのは大切なことである。また、空家等対策計画では、市の現状を調査した上で計画を策定しており、市の施策を進める上で、人口の状況を含め実態を把握するのは重要な視点だと認識している。

【委員】 都市と農村の調和したまちづくりとあるが、「調和」というのはなかなか難しい課題だと思う。農村部の人が都市で、都市部の人が農村でというお互いの交流だけでは進まないのではないか。

【会長】 「調和」とは、どのような意味なのか。

【事務局】 帯広市は、都市部と自然豊かな農村地域を併せ持ち、都市部には、都市機能が整備され住みよい環境を提供し、農村地域は安全な農畜産物を生産・提供している。人的交流のみを意味するのではなく、そうした両面の機能を捉え「調和」と考えている。

【委員】 帯広市は、緑地と河川で都市部を囲み、その周辺に農村地域を配置するなど、考えられた都市形成だと思う。しかし、今回整理していただいた内容では、今後、どういう都市形成を目指すのかが見えてこない。どういうことを目指していくのか明らかにするのが計画ではないか。課題に対する考え方はあるが、こういうまちづくりをしていくということがわかるかと思う。

【事務局】 帯広市は他の自治体と比較しても計画的に都市形成を進めてきていると認識している。今あるものをしっかり守るという姿勢を示すなど、わかりやすい記載としたい。

【委員】 誇るべきところはしっかりと計画に記載していいと思う。

【委員】 人口減少のプラスの面は、子どもの絶対数が減少することで、教育をよりカスタマイズ・パーソナル化ができるなど、子どもへ投資を集中できることであると考えている。

また、人口に占める高齢者の割合が上昇することで、教育分野など

においては、高齢者の活躍が期待できるほか、公共交通機関の利用増、高齢者を対象とするビジネスの広がりなども期待できるのではないかな。

【委員】 帯広市は、子育て世代でも起業している人が多く、子育てしながら働ける環境が比較的整っていると思う。しかしながら、高校生の一部には、朝から夕方までひとつの商業施設内にただ滞在しているだけのグループがいるほか、若年層の社会人の中には、平日は自宅と職場の往復のみで、休日は札幌圏へのショッピングや旅行に出掛けてしまうという話を聞いており、この地域で情熱を注いで取り組めるものが少ないのではないかと感じている。例えば、利用頻度の低い公共施設を活用し、夜間に高校生を含む若年層が興味・関心ある分野の講座を開催し、様々なことにチャレンジする空間として提供するなど、その世代がいきいきと暮らすことができるような支援が、結果として定住につながるのではないかな。

【委員】 広小路を学校祭や高齢者の活動の場に活用するなど、高齢者や若い方々の発想を取り入れる視点も大切ではないかな。

【会長】 他になければ、次に（４）「まちづくりの方向性の取りまとめに向けた視点」を議題とする。事務局から説明願う。

— 資料４により事務局説明 —

【会長】 ただ今の説明について、質疑を行う。意見・質問等あれば、発言いただきたい。

【委員】 この項目の議論の位置付けは何か。

【事務局】 前回の答申書で言えば、「まちづくりの基本的な考え方」にあたり、各施策の取り組みを進めるための根幹となる考え方である。さきほどご議論いただいた各分野の考え方の土台となるものと理解いただきたい。

【委員】 上士幌町のようにふるさと納税で潤っている自治体もあり、未来の子どもたちに負担してもらふ以外の視点や手法はないものか。

【事務局】 ふるさと納税に限らず、自主財源確保の視点は重要である。本市では、企業誘致などを通じた税収確保などに取り組んでいる。将来への負担を増やさないう、まちづくりを進めていくという視点は重要であると認識している。

【事務局】 未来に残す中には、十勝・帯広で、子どもたちがどう愛されたかという記憶が大切であり、これが子どもたちに残っていくと、まちが循環していくと思う。この地を離れた若者が戻ろうと思うときに、ここで大人たちに愛されたという記憶があると変わるのではないかと思っている。財源確保の視点も大事だが愛された記憶というのも大事だと考えている。

【会長】 他になければ、次に（５）「総合計画推進の考え方」を議題とする。事務局から説明願う。

— 資料５により事務局説明 —

【会長】 ただ今の説明について、質疑を行う。意見・質問等あれば、発言いただきたい。

【委員】 内容についてはこの通りで良いが、文章の一文が長いので整理が必要ではないか。

【事務局】 表現等の整理については、対応したい。

【会長】 他になければ、最後に事務局から説明願う。

【事務局】 次回以降の審議会の日程調整をしたいため、事務局までご連絡いただきたい。また、審議会の中でお話できなかった質問や疑問があれば、

本日配付した「質問意見シート」に記入の上、事務局まで提出いただきたい。

【会 長】 以上をもって、本日の会議を終了する。

以上